

河政工業株式会社

信頼できる弁理士との出逢い 開発段階からの細やかな相談で知財を創出

事業内容

金属プレス加工、製造並びに部品組み立て販売
工作機械、医療機器、梱包機械等、各種省力機械の設計及び製作
ロボットシステムや自動組立機などの工業用自動化システムの一貫製造

知的財産権と内容

特許第7261398号	光ファイバ巻取機構及び光ファイバジャイロ用の光路の製造方法
特許第5674037号	蛍光灯用消灯具、及び、これを用いた照明装置
特許第4742180号	反射板、及び、これを用いた照明装置
意匠登録第1447309号	消灯キャップ
商標登録第6275471号	カワマサイダストリーインク、カワマサイダストリー、カワマサ、カワマサイダストリーインコーポレーテッド 区分7.9

他 特許権1件、商標権1件

(2023年10月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役 中瀬 勲 さん

創業93年

～老舗金属加工メーカーの技術と新事業展開～

東京都葛飾区に本社を構える当社は、1930年創業の老舗金属加工メーカーである。社名は創業者の政吉さんと、その実家の魚屋「河内屋」に由来し、洋傘に使われる金属部品の製造から始まった。以来、長年にわたり金属プレス加工や部品の組み立てを中心に事業を展開。化粧品容器、デジタル機器、文具など、あらゆる業種に向けた金属加工品の提供を行っている。代表の中瀬社長は、前職の設計会社でメカ設計エンジニアとして従事した後、23年前に当社へ入社。入社後は自社の生産ラインを自動化したいという想いのもと、生産用自動機械の設計・製造の事業を立ち上げた。近年は自動車や宇宙産業、医薬業などにおけるロボットや自動組立機などの開発・製造にも取り組み、代表製品・FOG(ファイバーオプティカルジャイロ/コイル状に巻かれた光ファイバー)巻線機の開発に成功。このように、当社は金属プレス加工と自動機械製造(FA)の二本柱で事業展開している。

長年の研究成果と自社技術の防衛

～初めての特許申請～

前職の時代から自身の経験とノウハウを活かして研究開発に携わっていた中瀬社長。特許取得を意識したのは当社に転職後のことであったという。「長年、研究開発を続けているFOGに関する技術を、有効な商材にし

たい」という想いと、「新技術を用いた製品を売り出したい」という挑戦心が重なり、2021年に初めて特許取得に至った。また、取得に及んだ理由はもう一つある。それは新製品が誕生した後、アメリカの企業から突然の引き合いがあったことだった。当社の部品を採用していた日本の宇宙航空研究開発機構(JAXA)が、アメリカの学会で当社のFOGの技術について紹介したことが発端となり、アメリカ企業からの問い合わせが増加したのである。これを機に「自社の技術を守りたい」と想いが芽生え、国際特許に加え「KAWAMASA INDUSTRY INC.」という商標も同時に取得した。

弁理士との出逢い、そして信頼関係

初めての特許取得を無事に進められた背景には、弁理士との綿密な相談過程があった。特許出願を行うには当然、相談する弁理士にもその企業の事業内容や技術を理解してもらう必要がある。当社は機械製造という業種柄、その技術の専門性が高く、相談先についても初めは頭を悩ませたという。当初依頼した弁理士は、機械製造が専門分野ではなかったため、自社の技術を思い通りに理解してもらえないことが障壁になった。そこで中瀬社長は中小企業振興公社の窓口へ相談。そこでの紹介が、現在当社の担当となっている弁理士との出逢いであった。中瀬社長は弁理士との初めての相談で、製作した機械の新しい技術を説明し、これを知

的財産にしたいことを率直に伝えたという。担当弁理士は、中瀬社長の丁寧な説明に加えて、自身も機械製造の経験があったため、当社の技術を深く理解することができた。特許取得後も弁理士と定期的に情報交換や相談を行い、信頼関係を構築してきたことで、現在では開発段階からそのアイデアの独自性や実現性についての相談を行っている。

知財活用における苦悩



中瀬社長は当時、満を持して特許出願を行ったが、その出願には壁もあったという。それは申請した開発技術が他社と類似していると特許庁から指摘されたことである。指摘を受け、中瀬社長は特許を確立できる部分を明確にするため、弁理士と相談を繰り返した。自社の技術の有効性・独自性を細かに説明し、弁理士に“見える化”をしてもらったことで、拒絶理由となっていた“他社との類似性”を解消し、特許取得に至った。加えて、弁理士から、特許申請の際に技術を全部

開示してしまうと、他社に真似されてしまうリスクがあることを伝えられ、開示内容を弁理士と一緒に精査した。こうした結果、新技術の確立と自社を守ることの両方を実現する“攻めと守り”の特許を取得することができた。

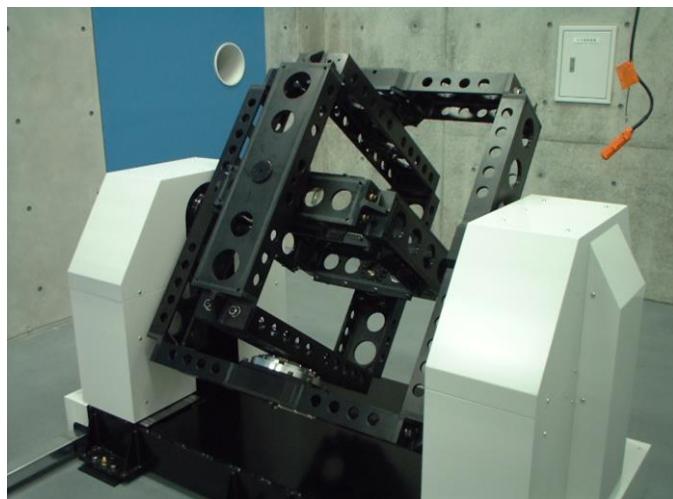
知財取得を目指す経営者へのメッセージ

注目!

中瀬社長は「アイデアや技術を開発したのであれば、知財取得を目指すべきだ」と語る。特許を取得したことで、展示会展や海外の販路開拓などが可能となり、事業展開につながったという。また、特許出願の過程を経て「他社技術との差を知ることができ、営業の強みにもなっている」とも語った。知財は、中小企業にとって自社の発展と販路拡大に必要なツールとなる。中瀬社長は初めての特許出願を振り返り「具体的なアイデアを説明し、率直に相談したことで特許出願をスムーズに進めることができた。日頃から知財について弁理士との信頼関係を築いておくことが大事だ」と語った。



FOG(コイル状に巻かれた光ファイバー) 巻線機



人工衛星姿勢制御装置

知的財産活用のポイント

知財取得と継続的なPRで販路を開拓

同社は既存事業の金属プレス加工業から生産ラインの自動化など企業のFA化を主力事業に据えて製品開発を行っている。中瀬社長が前職で培った技術を活かして開発したFOG巻線機は、国内で特許を取得し、さらにアメリカ、EUと2つの地域で海外特許を

取得。代理店や展示会を活用しながら、着実に販路を開拓している。また、地元葛飾区が主催する「町工場見本市」にも出展するなど、国内外を問わずPRを継続していることで、会社の認知度向上と信頼を獲得してきた。中瀬社長も「特許を取得したことは自社のPRに大きく貢献している」と話すように、当社は今後も新たな知財取得を視野にビジネスを展開していく。

COMPANY DATA

取材：2023年10月

所在地：東京都葛飾区東四つ木1-22-19 電話番号：03-3692-2226

URL：<https://www.kawamasa-industry.co.jp/> 設立：1947年11月 資本金：1500万円 従業員：14名

